



コスモ・スクール うすだ

一人一人が輝き つながり 未来を拓く

輝く姿①(気持ちは姿を通して表出される)

校内を見て回っていると臼田小の子ども達の「輝く姿」に出会うことがあります。先日の朝の事でした。1年生が空き缶の入った袋を持って、6年生の昇降口あたりで困ったような顔や仕草をしていました。すると6年生の子が、その子に優しく問いかけます。1年生の子は「リサイクルのアルミ缶をどこに出せばいいのかわからない。」と伝えました。6年生の子は、口頭だけで伝えるのではなく、優しく語りかけながら、リサイクルアルミ缶入れの近くまで一緒に赴いて、下駄箱の端に1年生を待たせると、持ってきたアルミ缶をリサイクルアルミ缶入れる袋に入れてあげるのです。その後、1年生が再度6年生に問いかけながらリサイクル委員会が主催しているリサイクルカードをランドセルから探す様子。すると6年生は膝を折り、1年生と視線を同じくしながら、まだ、リサイクルカードを出す期間ではないことを伝えて、諭します。この写真は、その時の写真です。



この二人のやりとりの時間。なんだかやさしく暖かな時間が流れているように思えたのです。写真を撮影されたことがある方なら分かりますが、この写真は完全に逆光の写真です。しかし、東から校舎に差し込む日差しがなんといい感じに二人を照らし、神々しくも見えたのでした。この姿から、6年間学校にいるから6年生ではなく、頼りになり、学校を支えていく場を与えられ、その場に合った心の動きを体を通して表出することができるからこそ、6年生なのだと思えさせられたのです。そして、このような臼田小学校を背負って立つ「臼田の顔」6年生がいることが大変誇らしく思うのでした。多分、この1年生は、この時の事を胸に抱き、自分が困っている人を見かけた時に、この時のことを思い出して、「恩送り」をしてくれると思うのです。

輝く姿②(気持ちは姿を通して表出される)



この校長室前の廊下の掃除をしている子は、2年生のお子さんです。雑巾は上手に手のひらサイズに折りたたまれ、両膝を床に付き、目線はしっかりと床という掃除の対象に一心に向かっています。もちろん無言です。そして、腕の動きは、ワイパーの動きのように曲線を描かず、一直線に右から左へと動き、自分の肩幅より少し幅が広い、自分の力が込められ、姿勢が崩れないであろう所まで行き着くと、直角に雑巾一つ分下げ、また左から右へと動きます。この一連の動作を後退りしながら続けていきます。その指先は、若干白味がかり、この子が力を込めて床磨きをしているかを物語っています。このお子さんがしていることは、「雑巾がけ」ではなく、「床磨き」なのです。なぜなら、この姿を見た私は、「雑巾がけ」という言葉は適切ではないと思ったのです。そして、小学校2年生ながらも、誠実さや規範意識の高さなどの心根が、この姿を通して表出されていることに気付くのです。多分、

このお子さんは、どこの掃除分担になったとしても、誰かが管理、監督、監視しなくても、この姿は変わらないと思うのです。そういう信頼感すら、この姿一つで他者にもたせてしまうのは、このお子さんの静かなる迫力とも思える姿だと思うのです。

「持ち込む」「持ち出す」「持ち寄る」という文化

本年度、本校は、様々な取り組みを行っています。その中の一つに、「生活科、総合的な学習の時間を窓口とした授業改善」です。このような取り組みの中で、本校の子ども達の姿が変化しつつあります。それは、問いや学びを「持ち込む」「持ち出す」「持ち寄る」という姿です。

昇降口には、様々な物が持ち込まれてきます。「カナヘビ」「ダンゴムシ」「トンボ」に「ヤゴ」それだけではなく、「木材」「プランター」や「腐葉土」。このように物質的に持ち込まれる物もあれば、家で気が付いた知識や情報もあります。



これらの子ども達の姿の根底には、学びの原動力となる「なぜだろう」「面白そうだな」「知りたい、分きたい」という「問い」と言う名の知的好奇心を揺さぶる何かがあり、そのような「問い」が、物や知識、経験として学校に持ち込まれてきたり、持ち出されたりします。そして、同じ「問い」をもつ友が物や知識を持ち寄ります。このような学びの営みが臼田小の文化として萌芽しつつあります。木材は、ヤギの小屋や秘密基地の材料。プランターや腐葉土などは、花づくり。他にも近隣の施設との関わりや星の町 臼田について学び始めている学級もあります。また、なおやマンとの交流やお蚕さんを育てるなどなど、子ども達は、このようにして、生活科や総合的な学習の時間の学びに向き合い始め、それぞれの学級の、一人一人のお子さんの「コスモタイム物語（ストーリー）」が始まりつつあります。

今後、保護者の方々だけではなく、地域の方や様々な方を巻き込んで活動していく場面が多くなってくると思います。もしも、子ども達がご協力を求めることがあったら、是非ともお力をお貸しいただければ幸いです。また、ご来校の際は、子ども達の「コスモタイム物語（ストーリー）」をご覧ください。

「きょ〜と〜と 話してみませんか？」

なかなか登校できない、お子さんをお持ちのご家庭の方

- ・ご家族だけでもOK
- ・お母様だけ、お父様だけでもOK
- ・もちろんお子さんの同席もOK
- ・ご自宅に伺うこともできます。

話の内容は、お子様のことはもちろん、その他の雑談でもOKです。

申し込み方法

- ・ご都合のよい日を何日か候補日として、お考えてください。
- ・学級担任に希望の旨をお知らせいただくか、
学校までお問い合わせください。
- ・きょ〜と〜の予定などを考慮して、
日程を折り返しご提案いたします。

